

第10回コーディネーター養成講座」を終えて

福井県済生会病院メディカルカフェ 車屋 知美

昨年、新型コロナウイルスの影響で残念ながら開催延期となった「第10回がん哲学外来コーディネーター養成講座」が、大会長である片山先生はじめ、開催地である群馬の方々のご尽力により完全オンラインにて6月12日に開催することができました。

私は養成講座の司会とグループ交流会のファシリテーターとして関わらせていただきました。司会をしながら見ているパソコン画面には真剣に耳を傾ける受講者の皆様の顔が映っていて、オンラインでもがん哲学外来の学びへの熱い思いを感じることができました。

二つの教育講演はどちらも今を生きるがん患者やその家族、関わる人々にとって深い学びをもたらしたと思います。そして、今回の試みとしてオンライングループ交流会がありました。がん哲学外来コーディネーター養成講座の醍醐味の一つにグループワークがありますが『オンライン形式では従来のようなグループワークは無理、でも受講者の方々が対話できる場を作りたい』と絞りだされたものがグループ交流会です。

短い時間で画面越しでのやり取りでしたが、各々に今回の出会いを大切に、発言に寄り添う姿が印象的でした。オンライン開催でも84名という多くの方が受講されたそうです。

コロナ禍でも「自分は一人じゃない、仲間がいる」と再確認できた今回の養成講座は、オンライン慣れ、司会慣れしていなかった私がやらかした失敗の数々を帳消しにするくらい、非常に充実した内容の養成講座であったと思います。

6月12日 オンライン養成講座プログラム

総合司会 福井県済生会病院臨床心理士 車屋 知美

13:30～ 開会挨拶 実行委員長 片山 和久

13:40～ ガイダンス

「がん哲学外来コーディネーター養成講座の目的」

東海大学医学部血液・腫瘍内科教授 安藤 潔

14:00～ 教育講演1 「キャンサー・サバイバーシップを考える ～寄り添うとは何か～」

キャンサーソリューションズ 代表 桜井なおみ

14:50～ 教育講演2 「日常からのコンフリクト対応 ～客観視のススメ～」

風の道 代表 / 利根中央病院 永井 弥生

15:40～ ブレイクアウトルームでグループ交流会

17:10～ 講評 順天堂大学名誉教授 樋野 興夫

17:25～ 閉会挨拶 福井県済生会病院 宗本 義則

「リモート養成講座」に参加しました！

佐久ひとときカフェ 油井 早苗

昨年度、コロナ感染拡大で中止になった第10回がん哲学外来コーディネーター養成講座が市民学会群馬大会と共にリモートで開催されるとメールで通知があったのは3月下旬でした。

早速申し込むと、5月末に受講番号とZOOM入室URLとパスワード、IDがメールで届き、開催要項とプログラムが郵送されて来ました。

事前のテスト入室は仕事のため出来なかったのですが、当日きちんと繋がるか不安でしたが、無事受講する事が出来ました。二日間の各先生方の講演はどれも現在の私の仕事(介護職)や今後の生き方を考えていくうえでとてもタイムリーで参考になる内容ばかりでした。

また、二回のブレイクアウトルーム交流会は司会の安藤潔先生、ファシリテーターの阿部さんの巧みな誘導で短時間でしたがグループの皆さんの色々な思いや取り組みを聞く事が出来、有意義で楽しい時間でした。

大会開催にあたってご苦労された皆様、本当にありがとうございました。

実際にお会い出来る日を心待ちにしています。ただ、片山先生もおっしゃっていましたが、リモートだからこそ参加出来た方もいらっしゃるかと思います。今後リモート枠を設けて頂けたら有難いと感じました。

人生の邂逅に見る
不連続の連続性

カフェの目指す"寄り添い"とは



◇群馬大会「講演4」の座長は、北澤彰浩先生。



◇「がんと生きる」撮影秘話

- ・宗本義則先生 (福井県済生会病院)・野澤和之監督
- ・春日井いつ子さん (ながれやまカフェ)

<編集後記> がん哲学外来市民学会 広報 星野昭江

◇群馬大会の6月13日。終日、パソコンの前でメモしたり写真を撮ったり、それなりに大忙しでした。

◇後日、片山先生から送られてきたのは「群馬医療福祉大学ボランティア学生さん」のレポート。フレッシュで、一生懸命で、嘘がなかった。全員の全文を掲載したいほどに感動しました。

◇「若者よ。有難うございました」。あなた達の協力で「がん哲学外来市民学会」、「コーディネーター養成講座」を成功裏に終えることができました。感謝！